

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572308005		
法人名	ホブシー有限会社		
事業所名	グループホームホブシー		
所在地	秋田県潟上市天王字上北野71-8		
自己評価作成日	平成30年12月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田市旭北栄町1番5号		
訪問調査日	平成31年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の見守りの中で自由に外へ出て、テラスや庭、東屋で過ごすなど施錠をしない工夫をしている。日々の個別での外出以外で全員で外出する日を設けたり、地域の行事に参加する際に家族を招待したり、友人が定期的に訪ねてきたり、利用者の家族との関係性・地域との繋がりを切らさないように工夫している。畑の植え付ける苗の選択・買い出し・収穫の一連を入居者主体で自己選択により行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの尊厳が守られ、健康で生活するためのきめ細やかな支援が提供されています。散歩や買い物はもとより、畑での野菜作りなど、利用者のADL、IADL状況を職員が共有し、利用者の心身の状況に応じた生活者としての役割を自然な形で引き出しています。また、地域の行事や防災訓練への参加など地域で暮らす生活者としての充実感を持つことができるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、 <b>代表者</b> と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を事務所内に掲げ共有している。入居者の意思・意向を尊重した上で実践できるように話し合いながら日々取り組んでいる。	各介護職員の利用者への言動から事業所の理念が浸透していることが伺われました。利用者主体の生活を心がけることが共有されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天候によるが毎朝、入居者が事業所周辺の散歩に出歩き、地域の方々や挨拶を交わしている。又、防災訓練やクリーンナップ活動、文化祭、祭り行事等の地域活動へ参加を行い地域の一員として過ごしている。	地域活動や行事に積極的に参加し、地域の住民と「生活者」としての交流が行われています。	
3		○事業所の力を活かした <b>地域とのつながり</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に <b>伝え、地域貢献している</b>	運営推進会議等で認知症状についての主症状の理解を話し地域の中で変わらぬ生活を営むことができる事を伝えている。又、行事に参加する事で認知症についての間違っした誤解等を解く事ができている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各会でテーマを設け、テーマに合った役職や職種の方から参加をして頂き、質疑応答を行う事を行っている。意見を聞いた上でサービスの向上や改善に活かしている。	運営推進会議には毎回行政機関の出席を働きかけています。また、テーマに沿って出席をお願いする地域住民は協力的で、建設的な意見交換が活発に行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所の関係機関へは、現状の問題等に関しても包み隠さずに伝え連絡を取り合っている。問題についての助言等を得ながら日々対応している。	運営推進会議の議事録の提出や生活保護受給に関することや困難事例の相談等、連絡を密にしてサービス向上に繋げています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関センサーや見守りでなど施錠を行わずに生活して頂いている、帰宅願望が強い入居者へは、傾聴し職員付き添い外へ外出するなどで本人の想いを大切にケアを行っている。	職員研修、申し送り、カンファレンス会議等で利用者の情報を共有し、「身体拘束をしないケア」の実践に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者との会話、皮膚観察を行い小さな変化にも目を向け気付いた事を介護記録に残し担当者会議やミーティングに取り上げ話し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センター主催で弁護士等を講師にした権利擁護についての勉強会が年に1回あり、管理者及び職員が参加し学習しています。それを基に内部研修を行い伝達し、家族や地域住民等にも情報共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を読み上げ、納得した事を確認した上で次の項目を説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の交流の中で入居者の要望や家族の意見等を捉え、管理者及び職員が反映させ、運営推進会議で結果を報告するようにしている。運営推進会議には入居者及び家族、地域等で構成し外部者へ表せる機会を設けている。	運営推進会議や家族の面会時に意見や要望を伝えていただいたり、アンケートを配布し、運営に反映させています。また、「ホプシー便り」で利用者の最近の様子をお知らせして、意見をいただけるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各棟で会議を行い職員の意見や要望・提案を上げて貰っている。管理者が傾聴し代表者判断によるものは代表者へ報告し職員の要望等を反映させている。	職員研修や職員ミーティングで話し合われた結果を基にサービスの改善や環境改善に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営者同士の繋がりで、他者の取組みの情報交換をしたり、他の求人を確認し、研修参加時など他事業所の取組みを聞きながら参考にし、専門家の意見を聞きながら整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、 <b>代表者自身</b> や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域包括支援センターや協会等の様々な研修に参加している。参加した後は伝達研修を行い個人のレベルをあげる事ができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、 <b>代表者自身</b> や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	男鹿南秋のグループホームで集まりを半年に一度行っており、その場に職員が複数名で参加しネットワークの構築や勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	キーパーソンや家族の方の情報をもとに、相談援助技術を活用しながら関係作りに努めている。又、本人の話と交流する中で訴え等に気づきすぐに対応する事で信頼関係の構築を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学时家族からの要望も聞き、入居時点で叶える事ができるように体制等を整え、対応できるように努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を行う仲間として協力し合えるように見守り、支え合い・お互い様の声掛けやきっかけ作りを行っている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等の際に家族の方へ案内の電話をし一緒に参加して頂いたりしている。又、疎遠にならないように定期的に家族に電話し、入居者と直接会話できるようにしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員が付き添い、自宅や家族の墓へ墓参りに行ったりしている。又、友人、知人が訪ねてきやすい雰囲気作りに努めている。	利用者本人及び家族からの聞き取りにより利用者一人ひとりの生活歴を把握し、これまでの生活の継続性に努めています。馴染みの店や美容室に行ったり、友人の訪問を積極的に受け入れています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人が得意な事等を職員が把握した上で作業を行い、分からない事を教えて頂きながら共同作業を行い達成感を共通して味わう事ができる声掛けに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にも連絡を頂いたり、したりしながら関係性を大切にしている。手紙や暑中見舞い、年賀状等で近況報告を頂く事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室での会話時、外出の際等に話を伺い、居室担当から職員へ情報共有を行っている。本人からの把握が難しい時には、家族等に相談し本人であればと想像しながら検討している。	観察や日々のコミュニケーション、生活歴等から要望やニーズの把握に努め、職員間で情報を共有し、その人らしさを尊重した生活支援が行われています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 <b>生きがい</b> 、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人がリラックスして会話できる環境で生活歴を聞き、把握するようにしている。又、家族面会時等を利用し家族からも暮らし方等を聴取している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホーム内だけでなく外出した際の歩行状態、心身状態の変化を把握し、現状の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の関わりの中で新たな課題やそれに対応し、どのような変化があったかを職員、家族などで情報共有し、介護計画を作成している。	観察や利用者との日々のコミュニケーションから要望やニーズの情報収集に努め、モニタリングが行われ、家族の意向を含めたサービス計画に反映させています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の経過や変化を記録し、大きな変化があればその場の状況も詳細に記録し職員間で情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の婦人部、老人会等と連絡を取り、文化祭に提出する作品の案やアドバイスを頂き、作り方を直接入居者へ教えて頂いたりして地域行事に参加している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期訪問診療と、かかりつけ薬局による処方薬の処方、訪問診療直後に薬の変更等を電話等で報告して対応している。それ以外の総合病院での検査なども必要に応じ対応している。	定期的に協力医による訪問診療が行われています。また、グループホーム利用以前のかかりつけ医への受診やかかりつけ薬局の利用、希望する医療機関での受診にも対応されています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の定期訪問看護だけでなく、大きな変化があった際、ターミナル支援など随時連絡を取り、相談し、必要な際は訪問をお願いしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は定期的に家族に連絡したり、直接病院へ訪問し関係者と情報交換している。又、必要物品や洗濯物の引き取りをしたり、食事の時間に合わせて伺い、入居者本人との関係性も維持できるようにしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を早いうちに確認し、事業所でできる事、できない事を説明しながら双方が納得した上で対応を行っている。又、生活保護受給者であれば行政とも情報を共有しながら取り組んでいる。	本人の意向を尊重しながら、家族の意向についても事前アンケートを行っています。事業所としてこれまでの看取りの経験を活かし医師、看護師、介護士と連携してご家族の協力を得ながら取り組んでいます。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変等時に慌てる事がないように日々の利用者の状態や変化から考えられる事を予測し対応策を周知している。状況に合わせてかかりつけ医や訪問看護へ連絡し助言を頂く。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練や夜間を想定した訓練、地域の消防団や町内の防災担当者などと連絡を取り合い、協力体制を築いている。	地域の防災担当者とも連携を深め協力体制が構築されています。また、不測の事態に備え、非公式ながらも近隣の福祉施設と連携体制を築き、利用者の安全を確保しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格や年代に合わせ、目線を合わせた言葉かけ、居室へ誘導し他者の目が気にならないような環境作りを行い話をするなどの対応をしている。	利用者一人ひとりの個性を大切にし、尊厳ある生活を意識したケアをしています。また、排泄ケア、入浴ケアには、同性介護を原則としています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時や居室内、個別外出時等本人と職員が話しやすい環境を作り、本人の気持ちを伝えやすい空気を作り、些細なことも本人の意向や自己選択の確認をするようにしている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や気持ちの変化を捉え、状況に合わせた生活を支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の衣服、家族に会う際の衣服を選んでもらっています。重度化した利用者は、昔の写真を参考に選んだりしています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや調理、味付け、盛り付け、配膳、下膳、食器洗浄、食器拭き等それぞれが持ちうる能力に合わせて皆が参加できるように支援している。	利用者と一緒に買い物に行き、利用者一人ひとりの能力を引き出し、食事の準備から後始末まで行っています。また、旬な食材をメニューに取り入れたり、畑で収穫した野菜を調理して食事を楽しんでいます。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう <b>状況を把握し</b> 、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の希望の献立を取り入れながら、栄養バランスを調整している。水分も摂取しやすい物や状況を考えて提供している。一度に摂取できない方へは、補食も提供しながら適量となるように努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にうがいや歯磨きを促す声掛けを行っています。夜だけは職員が確認しながら来ていないところを手伝うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿取りパッドやオムツを使用しているも、定時でのトイレ誘導の他、入居者が落ち着かない行動をしたりした際にも誘導し自排を促す支援を行っている。	健康状態を確認できるよう排泄の有無を確認しています。また、羞恥心を損なわないようプライバシーの保護や同性介護等の配慮されています。	排泄の有無の確認だけではなく、健康を維持し、気持ちよく排泄するためには、利用者一人ひとりの排泄感覚を把握することが必要ですので、時間が確認できるチェック表への変更を期待します。
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のバランス、水分摂取量、適度な運動で便秘の予防を行っている。必要に応じてかかりつけ医に相談し、処方薬で調整を行う。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的入浴の他、本人の希望により入浴できるようにしている。時には複数名で近くの温泉に出向き楽しむ事をしている。	バイタルチェックやコミュニケーションにより利用者の心身状況を確認し、希望に沿えるよう配慮されています。また、浴室にはリフトが備え付けられ、リフト浴にも対応しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前の時間リラックスできるような声掛けを行い、その時々体調に合わせて休息できるように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の状況に変化があった際には、医療関係者へ報告・相談をし、症状の変化に合わせた支援を行うように努めている。又、かかりつけ薬剤師への相談も気軽に行えるよう体制を整えている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの得意分野を活かせるようなきっかけづくりをし、役割や楽しみを生活に取り入れられる様支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員人員が多い日は、全員で出掛けたり、入居者本人の希望を元に家族へ連絡し許可を得た上で出掛けたりしている。	散歩や食材の買い物は日常的に行われています。また、利用者の要望も取り入れ、日帰り温泉や百貨店への買い物支援が行われています。さらに、観桜会、花火大会など行事に応じた外出が行われています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通院時以外にも本人の希望があればその希望する場所へ職員と出掛けて、個人の財布から買物をされています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したり、遠くに住む家族から毎週電話がかかってきたりします。中には、携帯電話を持っている方も居ます。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気が合う利用者同士雑談したり、一人でも居心地がよく感じられるように環境整備をし、声掛けを行い配慮しています。	温度湿度計が設置され、職員は常に意識しています。床はクッション素材で不快音への配慮がされています。また、テラスへ通じる窓からの採光により、共有空間は明るく、かつ、季節を感じることができます。空気清浄機も備え付け、清潔に心がけた環境のなかで生活されています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置を変えたり、ソファの活用を促したり、天気が良く暖かい日には東屋の活用等をし、その時の方が過ごしやすい居場所作りを行っています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、慣れ親しんだ物を自宅から持ち込んで頂き、写真等を自室に飾るなどして居心地のいい空間作りを手伝っています。	使い慣れたベッドや家具を持ち込み、在宅での生活の延長上を意識した配慮がされています。利用者とその家族と相談しながら安心できる環境づくりをされています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態変化に合わせ、環境も快適になるよう職員で情報共有しながら環境作りをしている。		